進路通信

鳳

上田市立第五中学校　３学年

第３６号　２０２２年　２月１０日

公立高校前期選抜が終了しました。あと、1か月で公立高校後期選抜です。

もう、１か月しかないと考えるか。まだ、１か月もある！と考えるか。当然、まだ１か月もあると考えて、学習の総仕上げをしましょう。第６回の総合テスト終了からのラストスパートで、公立高校後期選抜受検で、１０点～２０点も得点を伸ばすことができます。

残り１か月の必勝勉強法！！

１基礎基本を総整理して、応用できるまでに高め

・各教科とも基本事項が頭の中に定着して自由に活用できれば、入試問題で解けない問題はありません。大切なことは、それらの知識をきちんと整理して、いつでも取り出して応用できるところまで高めておくことです。５教科の中１から範囲を通して総整理してみましょう。ノートに単元ごとの重要項目を整理しながら、忘れていることや、疑問に思うことをすぐに調べるとよいです。

２過去問で「出題傾向」を知る

・基本項目が確認できたら、どれだけ入試で発揮できるかを確認しよう。そのためには「過去問」を解いてみることが最適です。その際「制限時間を守る」ことが第１の注意点。例えば数学は大問４問の出題なので、見直しの時間も考えれば１問当たりにかけることができる時間は１０分ですね。問１の計算問題を１０分で正確に解けるかやってみよう。また、間違えた問題は３回は解きなおそう。過去問を解くことで入試のパターンを知り、より効果的な対策を練ることができます。自信を持てるまで復習しましょう。

３頻出事項を最終確認する

・過去の入試問題に接することで、毎年の問題の傾向が理解、把握できます。各教科の頻出事項・単元を徹底的に覚えることが、これからの時期の総仕上げになります。これだけで各教科とも７割は確保できるはず！！

４「早寝・早起き・朝ごはん」で生活のリズムを作る

・人間の頭がフル回転するのは、目覚めてから２～３時間後と言われています。入試のスタートが９時からだとすると、６時に起床しなければ、ベストな状態で試験に臨むことができません。今日から（休日も）朝６時には起床し、そして朝ごはんをしっかり食べましょう。

第１希望の高校に内定をいただいている皆さんも公立後期選抜を受ける人たちと同じですよ。中学校の学習が高校の学習の基礎・基本です。高校での学習がスムーズにいくようにしっかり学習しておきましょう。

最近の高校入試では「記述・論述問題」が大幅に増えています。入試問題では「思考力・判断力・表現力等」をみる問題が多く出されます。

教科別アドバイス　～記述・論述問題に万全の対応を～

1国語は同音異義語をしっかりチェック。論述対策は自分の考えをまとめる練習を

・国語はここ数年、漢字１題、現代文２題、古典１題、会話文等１題とうい形式になっています。
昨年度の「会話文」は、資料を見て自分の意見を６０～８０字で書く問題が出題されました。日頃から自分の言葉で書く練習、そして、場の状況や相手の様子に応じて話す力をつけるようにしておきましょう。論述問題は、H３０年度は３問１８点、H３１年度は４問２０点、R２年度は５問２４点、昨年度は７問３３点という状況です。

2数学は根拠を明確にして記述する練習、基礎的計算問題は速く確実に

・数学は例年、大問４問の出題で、問１が計算問題等の基本問題、問２は方程式の応用や資料の活用等の小問、問３が関数、問４は図形という形態が続いています。記述・論述問題も増えていますが、「作図問題」はこの１０年間、毎年出題されています。また、必ず出題される「図形の証明問題」の配点は最も高い４点ですが、部分点があります。必ず証明が完結するまで書く努力をしましょう。「データの活用」もここ数年、毎年出題されています。

3社会は資料を確実に読み取る力と理由や背景を考える習慣を

・社会はR２・R３年度と続けて地理・歴史・公民の３分野各１問という出題形式になっています。歴史の問題に地理と公民分野の小問が含まれるなど、分野を越えた幅広い出題になっています。長野県の社会問題の大きな特徴は「資料から考察・判断」する問題の多さです。資料を確実に読み取る力が、社会突破の第１条件となります。地理では統計資料から特徴的なことを判断。歴史では人名や用語を正しい感じで覚え、歴史の流れを把握する。公民においても用語の意味を確実に把握すると同時に文章で説明できる力が必要です。

4理科は実験や観察問題は必ず出題理由や方法を理解し書く練習を

・理科はこの４年間、生物、化学、地学、物理各１題、計４問の出題が続いています。各分野２５点ずつの配点です。偏りなく勉強をすることが大切です。長野県の入試の特徴として、実験・観察問題をもとに出題されているので、総復習として、実験・観察方法をしっかり把握する時間としてもよいでしょう。
「目的」何を調べるために行うのか。「操作方法とその目的・意味」危険防止のための処置を含む「結果と考察」その結果から何がわかるか、なぜそうなるのか、他に調べる方法はあるか。この３点を明確にしておきましょう。

5英語は自分の考えを英語で書く練習を。長文読解はまずあらすじを読み取る

・英語は大問が４問で、問１がリスニング、問２が対話文等の小問集合、問３が記事・会話文・原稿の読解、問４が長文の読解という出題形式が続いています。最も配点が高いのが「英作文」英文を読みそれに対する自分の考えを１０語以上で書く問題、配点は８点。読解力と表現力が求められます。「英作文」では自分の伝えたい内容を、いかに的確な構文や表現を用いて書き表せるかがポイント。「紡ぐ」を英作文で書くなど日頃から英文を書きましょう。長文読解」や対話文では、本文全体をきちんと読み取る力をつけましょう。大まかに話の流れをつかむことがポイントです。

＊「学生信州」を参考に一部抜粋